

座談会 気仙沼復興のシンボル シーウォール

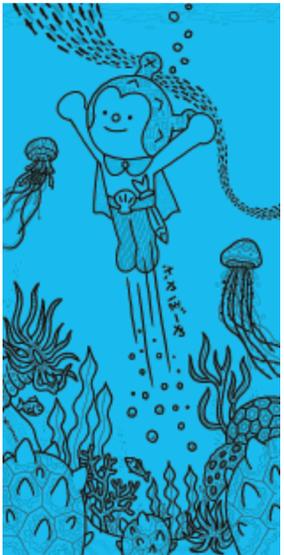
窓の向こうに漁港が見える、漁船が見える

東日本大震災後10年がたった。この間、被災地の人々の苦勞は大変なものだったと思われる。多くの人の努力により、被災地は力強く復興しつつある。その象徴としていち早く気仙沼市場が復興し、21世紀型造船所である「みらい造船」が誕生し、大島に橋が架かり陸続きになった。今月6日には三陸自動車道が開通し、名産品も気仙沼の孤島ではなくなった。そして市場の前に防潮堤「シーウォール」が設置された。復興の道のりのシンボルである。そこで、改めて震災10年を振り返りつつ、設置された防災と景観を両立させたシーウォールが果たす役割について、被災地気仙沼で座談会を開き関係者に話してもらった。

海とともに生きる気仙沼 日井氏
市場中心に水産産業復活を 齋藤氏
シーウォールは安全と景観の懸け橋 加藤氏



気仙沼市場の水産振興センターの前に設置されたシーウォール



「ホヤほーや」のイラストを施したシーウォール。観光と防災の両立にぴったりだ

日井会長 震災前は気仙沼市の人口が約2万2000人だったが、昨年は約6万2000人に減っている。特に若者が少なくなっている。震災の影響が色濃く出ている。震災後の火災もひどい。震災の影響が色濃く出ている。震災後の火災もひどい。震災の影響が色濃く出ている。震災後の火災もひどい。

海が見え町づくりと観光にも 喜田氏 防災と景観の両立できた 北濱氏 水圧に耐えて高い透明度 渡辺氏

喜田氏 海が見え町づくりと観光にも。防災と景観の両立できた。水圧に耐えて高い透明度。喜田氏は、シーウォールの設置が、町の復興と観光の両立に貢献している。北濱氏は、シーウォールのデザインが、防災と景観の両立を実現している。渡辺氏は、シーウォールの材料が、水圧に耐えて高い透明度を実現している。

- 座談会出席者**
- 気仙沼商工会議所名誉会長 日井福本店会長 日井 賢志氏
 - JF気仙沼漁協代表理事組長 福洋水産(株)社長 齋藤 徹夫氏
 - 気仙沼観光コンベンション協会会長 加藤 宣夫氏
 - SEAWALL推進協議会会長 喜田 俊雄氏
 - 住化アクリル販売(株)新規事業本部新規製品営業部長 渡辺 文人氏
 - SEAWALL推進協議会広報担当 北濱 小百合氏
 - 司会・水産経済新聞社編集委員 有村 実



座談会に出席した(左から)日井会長、喜田会長、齋藤組合長、加藤会長

加藤氏 シーウォールの先がはっきり見える。加藤氏は、シーウォールのデザインが、防災と景観の両立を実現している。渡辺氏は、シーウォールの材料が、水圧に耐えて高い透明度を実現している。



阪神淡路大震災を経験した兵庫東洲本港に設置されたシーウォール。窓越しに木と青い海が見える

高い強度を誇りメンテナンスフリーで常にきれい
 シーウォールは、高い強度を誇り、メンテナンスフリーで常にきれいな状態を維持できる。これは、シーウォールの材料が、水圧に耐えて高い透明度を実現しているためである。

シーウォールとは…

防潮堤のイメージを一新させる。シーウォールとは、東日本大震災以降、水辺の安全確保に対する関心が高まり、防潮堤の高さを高めて、防潮堤の天端高さを高くする。これにより、防潮堤の天端高さを高くする。これにより、防潮堤の天端高さを高くする。

ガラスを上回る透明度のアクリル製窓

シーウォールは、高い強度を誇り、メンテナンスフリーで常にきれいな状態を維持できる。これは、シーウォールの材料が、水圧に耐えて高い透明度を実現しているためである。